

プラスチックによる環境汚染と横浜市の取り組み

最近、プラスチックによる海洋汚染が世界的な問題として話題になっています。クジラの死体から大量のビニール袋が出てきたり、ウミガメの鼻にストローが刺さった写真などを見た方も多いと思います。スーパーがレジ袋を有料化したり、コーヒー店がプラスチック製ストローの使用中止を発表するなど、対策を進める企業も出ています。

横浜市でもこの問題に取り組むため「よこはまプラスチック資源循環アクションプログラム」を策定しました。このプログラムの目的は、①ペットボトルやプラスチック製容器包装を正しく分別してリサイクルする「資源循環の促進」、②燃やすごみに含まれているプラスチック類を削減して、温室効果ガスの排出を低減する「温暖化対策」、③プラスチック類の飛散やポイ捨てを抑制し、回収する「海洋流出の防止」です。

プラスチック対策は、下図のように、読者の皆さんが日頃から取り組んでいただいている身近なものから始めることができます。皆さんもプラスチック対策にご協力をお願いします。



山下公園付近の岸壁に漂着しているプラスチックごみ。およそ10m間隔に点々と漂着している



長崎県対馬市志多留海岸の漂着ごみ (提供：環境省)



島根県松江市の漂着ごみ (提供：環境省)

主に資源循環につながる行動

マイバッグの使用

マイバッグを持ち、レジ袋をもらわない



使い捨て食器はNO!

プラスチック製ストロー、スプーンやフォークなど、使い捨て食器をもらわない



マイボトルの使用

マイボトルを持ち、ペットボトルの使用を減らす



分別の徹底

きちんと分けてごみ箱へ



主に海洋流出防止につながる行動

ポイ捨てしない

きれいな心で
きれいな街に



清掃活動等の推進

街の美化、環境保全に向けて積極的に参加しよう



海洋汚染の防止にもつながるプラスチックとの付き合い方

海に流出するプラスチックごみは、街なかの「ポイ捨て」も原因のひとつです。住宅地や道路に捨てられたプラスチックごみは、側溝から河川に入り、海に流れ出ます。流出の防止には、プラスチック問題について認識し、プラスチックが資源である意識を高く持ち、「正しい分別」と「ポイ捨てをしない」ことが大切です。

正しい分別が海洋汚染の防止になる理由

環境省の資料によると、海洋プラスチックごみはアジア各国から流出したものが多く、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナムなどが上位です。日本は世界30位ですが、それでも年間2～6万トンもの量が流出していると言われています(表1)。また、日本沿岸の漂着ごみのうち、プラスチックが個数で65.8%、容積で48.4%を占め、一番多くなっています(グラフ1・2)。

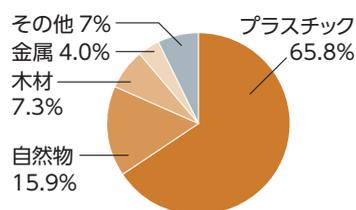
このような海洋に流出するプラスチックを減らすためには、ポイ捨てをなくすことが重要です。それには、プラスチックが再利用可能な資源であることをしっかりと理解し、分別を徹底する意識が大切です。日頃からプラスチックを資源として扱う習慣を身につけることで、燃やすごみに含まれるプラスチック類を削減でき、ポイ捨てをしないなどの環境に配慮した行動がとれるようになります。

■表1：海洋プラスチックの年間発生量

順位	国名	推計発生量
1位	中国	132～353万トン
2位	インドネシア	48～129万トン
3位	フィリピン	28～75万トン
4位	ベトナム	28～73万トン
5位	スリランカ	24～64万トン
...
20位	アメリカ	4～11万トン
...
30位	日本	2～6万トン

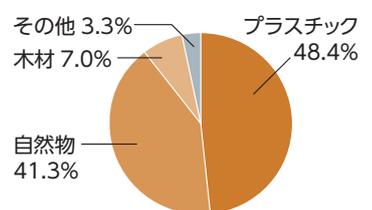
出典：環境省「海洋をめぐる最近の動向」(2010年推計)

■グラフ1：漂着ごみの種別個数



出典：環境省「海洋をめぐる最近の動向」(2016年度)

■グラフ2：漂着ごみの種別容積



出典：環境省「海洋をめぐる最近の動向」(2016年度)

正しい分別が浸透しないペットボトルとプラスチック製容器包装

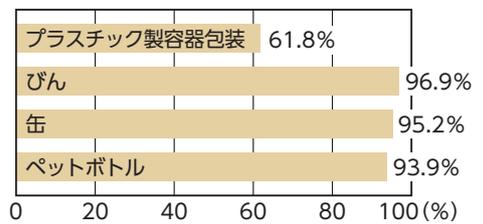
正しく分別ができていない資源物のひとつがペットボトルです。ペットボトルはキャップやラベルが混入していると品質が低下します(写真1)。神奈川県内の他の自治体と比較すると、横浜市は混入率が高く、品質評価があまりよくありません。ラベルとキャップは、きちんと外して「プラスチック製容器包装」として出してください。

同様に、分別が浸透していないのがプラスチック製容器包装で、わずか6割しか分別されていません(グラフ3)。燃やすごみに混入しているプラスチック製容器包装の内訳を調べると、一番多いのが「食品容器」です(表2)。マヨネーズやお弁当の容器などの食品容器は、内容物が残っていないければ、水で軽くすすぐだけでよいので資源物に分別してください。



写真1：キャップとラベルがついたままのペットボトル

■グラフ3：資源物の分別率



出典：横浜市資源循環局(2018年度)

■表2：燃やすごみに混入しているプラスチック製容器包装

順位	分類	内容
1位	食品容器	惣菜・卵・豆腐・納豆などのパック、食品トレイ、レトルト食品、食用油ボトル、マヨネーズ・からしのチューブほか
2位	食品以外の容器	石鹸・洗剤・シャンプーのボトル・ノズル、歯磨き粉・液状のり・ハンドクリームのチューブ、日用品の袋ほか
3位	菓子袋	菓子の袋
4位	食品包装	食品の包装ラップ、果物ネット、カップ麺のフィルム、ペットボトルのラベルほか

出典：横浜市資源循環局(2016年度)

ペットボトルとプラスチック製 容器包装からできる再生品

ペットボトルやプラスチック製容器包装は、資源化されたあと、さまざまなものに再生されています。そのいくつかをご紹介します。

ペットボトルは、「水平リサイクル」と「カスケードリサイクル」の2つがあります。水平リサイクルは、ペットボトルを原料に戻して、再びペットボトルをつくる方法です。カスケードリサイクルは、ペットボトルを細かく砕いた原料フレークに加工し、そこからさまざまな製品に再生する方法です。表3のように、食品トレイや衣料品、洗剤ボトルなど日常生活に関わる製品に利用されています。

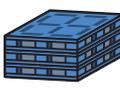
プラスチック製容器包装には、「材料リサイクル」と「ケミカルリサイクル」の2つがあります。材料リサイクルは、表4のように、さまざまな製品に再生されています。ケミカルリサイクルは、油に戻して化学原料にしたり、不燃物を取り除いて粒状にして製鉄所で使用する還元剤やコークスの代替品にするほか、合成ガスをつくる原料などにも利用されています。

■表3：ペットボトルからできる主な再生品

ペットボトル	食品用トレイ	ワーキングウェア	スーツ	洗剤ボトル	回収ボックス
					

出典：PETボトルリサイクル推進協議会

■表4：プラスチック製容器包装からできる主な再生品（ケミカルリサイクル製品を除く）

パレット	OAフロアー材	杭・擬木	マンホール蓋	プランター	ごみ袋
					

出典：日本容器包装リサイクル協会

分別の疑問は「出前講師」で解決

町内のポイ捨てごみを防ぐには、環境保護、資源リサイクルの意識を高くもっていただき、資源物の正しい分別を地道に進めていただくしかありません。資源リサイクルの大切さと正しい分別知識を身につけることが、ポイ捨てをなくし、町内の美化、横浜の海の海洋汚染の防止につながるのです。

資源リサイクルと資源物の分別方法に関する基礎講座、疑問の解消などには横浜市資源リサイクル事業協同組合が主催する「出前講師」を活用してください。資源リサイクルのプロが講師となって、無料で出張し講座を開催します。



出前講師の講義の様子

●「出前講師」の問い合わせ先

横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局

TEL: 045-444-2531 E-mail: mail@recycledesign.or.jp



環境絵日記に1万点を超える応募作品

横浜市資源リサイクル事業協同組合が主催する「環境絵日記」に、今年もたくさんのお子もたちが取り組んでくれました。毎年、横浜市内の小学校より1万5千作品以上の応募があり、今年もぞくぞくと環境絵日記が組合へ届いています。

子どもたちが描く環境絵日記は、大人へのメッセージです。環境絵日記を通じて寄せられたこれらのメッセージ

は、街づくりへの大切なアイデアでもあります。これらの貴重な提言を広く社会に発信していくことが、横浜市資源リサイクル事業協同組合の大切な使命だと考えています。応募作品はすべてデータ化され、環境絵日記Web展示場で公開（同意した作品のみ）される予定です。子どもたちの作品をぜひご覧ください。



環境絵日記 Web展示場



昨年度の環境絵日記大賞作品

12月8日(日)に「SDGs未来都市・環境絵日記展2019」を開催

今年は12月8日(日)にSDGs未来都市・環境絵日記展2019が開催されます。毎年恒例となったこのイベントは、昨年度6,000人を超える来場者がありました。

今年も選りすぐりの約700作品が一堂に展示され、環境にちなんだ体験

ブースも多数出展します。ほかにもステージイベントとして、大賞を含む優秀特別賞の表彰式や子どもと大人が将来の横浜について意見交換を行う環境会議などが開催されます。

子どもたちの未来へ向けた熱い思いの数々をぜひ会場で感じてください。



昨年のイベントの様子



作品展示スペース

SDGs未来都市・環境絵日記展2019

日時：令和元年12月8日(日) 11:00～16:00
 場所：横浜港大さん橋ホール(横浜市中区海岸通1-1-4)
 お問い合わせ先：横浜市資源リサイクル事業協同組合『環境絵日記』係
 TEL：045-444-2531

「浜なし」を使用した飲料「浜なしのひみつ」を販売

横浜市資源リサイクル事業協同組合は、市内でのリユースびんの流通量を増やすためオリジナルのリユースびんを製作し、地産地消をテーマとした飲料企画開発を行ってきました。

この秋には新商品として、「浜なし」を贅沢に使用した飲料「浜なしのひみつ」を販売します。

「浜なし」とは梨の品種名ではなく、横浜市内で認定された果樹生産者団体の統一ブランド名です。主な品種はいわゆる「三水」と呼ばれる「豊水」「幸水」「新水」です。しっかりと樹上で熟してから収穫される「浜なし」は、一般的な梨とは甘さが段違いです。「浜なしのひみつ」は、そのままギュッと絞っているため「浜なし」の甘さ、風味そのままを味わえます。横浜市内の



リユースびんのラベル



「浜なしのひみつ」パンフレット

飲食店において、随時販売していく予定です。横浜市資源リサイクル事業協同組合で適宜情報を公開していきますので、楽しみにしてお待ちください。

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。

